

株式会社ミライト・ワン発足

株式会社ミライト・ワン

1. はじめに

株式会社ミライト・ホールディングス、株式会社ミライト、株式会社ミライト・テクノロジーは、2022年7月1日に統合し「株式会社ミライト・ワン」が発足しました（図1）。

今回の統合では、事業構造の転換を加速することを目的とし、2020年11月12日発表後、2年弱の準備期間を経て実現しました。

新会社として生まれ変わるとともに、新グループ会社体制（図2）により、成長領域拡大に向けた強力なグループ連携を推進していきます。

これに合わせて、グループ社員約14,000人の想いを込



図2 ミライト・ワン グループ体制図

めてPurpose（存在意義）とMission（社会的使命）を再定義するとともに、幅広い社会インフラ領域におけるさ

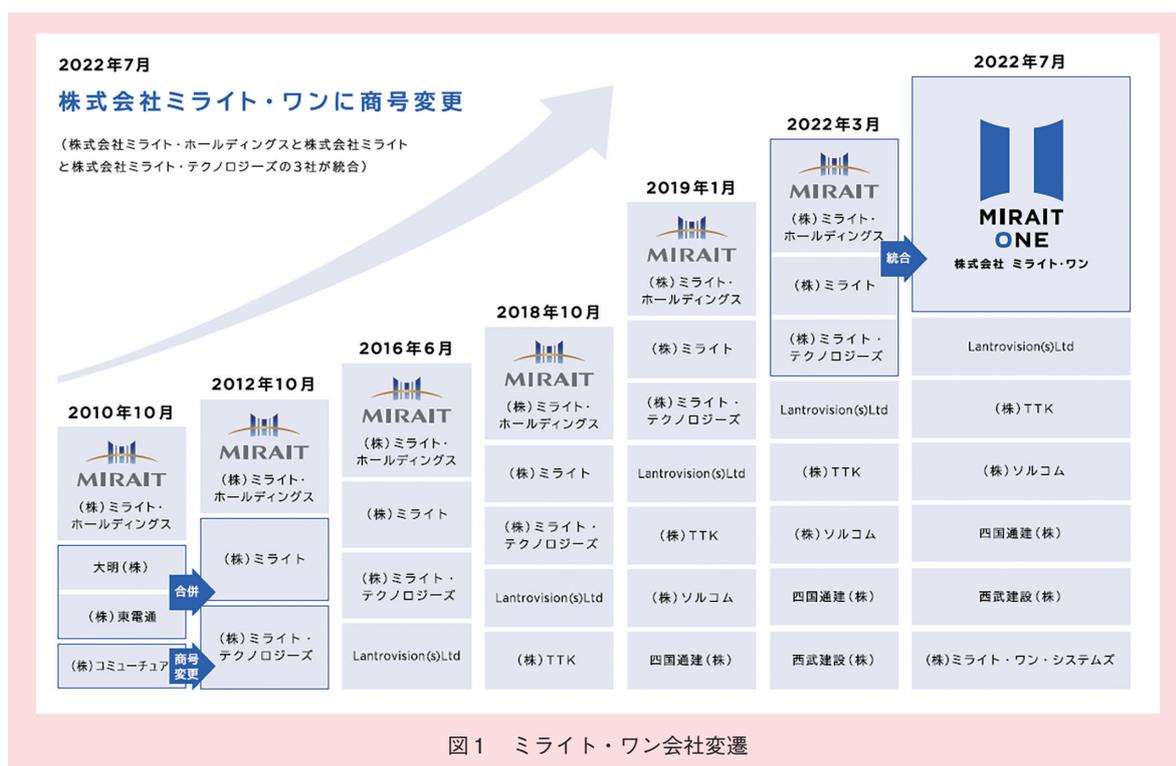


図1 ミライト・ワン会社変遷

さまざまな社会課題の解決にこれまで以上に貢献し続ける企業グループへ進化していくことを目指し、2030年に向けた新たな事業ビジョンとして、『MIRAIT ONE Group Vision 2030』を策定しましたので、ご紹介します。

2. Purpose (存在意義) / Mission (社会的使命) の再定義

新会社設立に向け、全グループの社員・役員14,000人アンケートを実施するとともに、さまざまなグループ対話を通じて想い、考え、希望、本音などを結集させ、私たちの存在意義と社会的役割をもう一度見つめ直し、パーパス・ミッションとして再定義いたしました。

見つめ直したパーパスは「技術と挑戦で『ワクワクする未来』を共創する」というテーマです。

そして、私たちグループの1人ひとりがとるべき行動、姿勢や信念など、お客様・株主様・パートナーの皆様・社員・社会全体への役割を5つのミッションとして、あらためて定義しました。

- ・「お客様の期待にお応えし、豊かな社会の実現に貢献する」
- ・「常に技術とビジネスモデルを磨き、高い付加価値を創造する」
- ・「パートナー会社と協力し合い『未来のインフラ』を創り守り続ける」
- ・「多様な社員がいきいきと働く『魅力的な企業グループ』であり続ける」
- ・「サステナビリティとコンプライアンスを重視し、社会の信頼に応える」

3. 新社名のコンセプト ～3つの想いを込めた新社名～

株式会社 ミライト・ワン

新しい会社名を決めるにあたり、グループ社員の想いを反映することを、第一の条件としました。今回、再定義したパーパスとミッションを「ONE」というシンプ

ルな単語に託し、以下の3つの想いを込めた新社名として「(株)ミライト・ワン」に決定しました。

(1) ONE for All, All for ONE

社員がひとつになり、その力を集結。新統合会社がグループの結束や連帯の象徴となることを目指します。

(2) Only ONE

社員1人ひとりの大切な個性を尊重するとともに、後述の「みらいドメイン」など新分野はもとより既存分野でも技術・サービスの品質やレベルなどにおいて他にない唯一無二を目指します。

(3) Number ONE

常に挑戦し続け、グローバルレベルのリーディングカンパニーを目指します。

4. ロゴマークに込めた想い ～新たなロゴマークとともに～



新たなロゴマークについても、新社名と共に検討をはじめ、数十点を超えるデザイン案を作り、繰り返し議論を重ねて、ロゴデザインが完成しました。今回、新たに再定義したパーパスとミッションが反映されています。

(1) 未来の扉

青い部分は「扉」、そして白い部分は「まばゆい光を放つ未来」。その扉が、今まさに開かんとしている、そんなシーンをイメージしています。

1人ひとりの社員がさまざまなパートナーとともに、新たな挑戦を行うことを通じて、「ワクワクする未来」を切り開く。そんな姿、シーンを象徴したのがこのロゴデザインです。

(2) 「M」と「ONE」

開かれた扉の周りの白い部分は、アルファベットの

「M」、中心の白い部分は、ローマ数字の「I」をイメージしています。シンプルな図形の中に、社名を表す頭文字が隠れています。

(3)「事業の広がり」

青い扉に立体感を出している、アーク（円弧）状の広がり、従来のMIRAITのロゴデザインから踏襲したもので、事業における広がりを表現しています。

(4)「MIRAIT ONEブルー」

従来のMIRAITロゴもブルー調のグラデーションカラーでしたが、MIRAIT ONEロゴでは、刷新したブルーをコーポレートカラーに採用しました。信頼性と先進性を感じさせる、よりビビッドな色合いになりました。

(5) MIRAIT ONEの「O」は「スーパー楕円」

「O」が色字になっているだけでなく、形も通常の「O」ではなく、丸みを強く感じるといわれる「スーパー楕円」という特殊な形状を採用しました。

円以上に丸みを感じると言われる形状をシンボリックにデザインすることで、共創、普遍性、一体感をロゴに付加しました。

5. MIRAIT ONE Group Vision 2030

次期ビジョンの新成長戦略のキーワードは『Change』

です。

新生ミライト・ワングループは、私たち社員1人ひとりが変わること、社会を変え、未来を変えていくことを目指します。新成長戦略においては、5つの事業変革『5 Changes』（図3）をやり抜くことで、次の10年の成長を目指します。

(1) Change 1「人間中心経営」

名実ともに人で成り立つ私たちの事業が成長していくためには、社員が健康であり安全であり、自ら変化し挑戦し成長していくことでしか道はありません。『人間中心経営』は事業戦略の中心となる戦略です。以下の3つの施策を主に推進していきます。

- ・みらいカレッジ開学～「学び」と「つながり」を提供する“事業構造改革の原動力”～
- ・社員にとって働きやすい職場づくりと心身の健康を守る「健康経営」
- ・With コロナへの“ミライト・ワン流”働き方改革施策のひとつである、「みらいカレッジ」（図4）についてご紹介します。

「人が学び成長する」ことは「人間中心経営」の中核的な要素との考えのもと、企業内大学『みらいカレッジ』を2022年7月に開学しました。

リアルキャンパスとデジタルキャンパスでの学びを有機的に組み合わせるとともに、学びを通じてグループ社

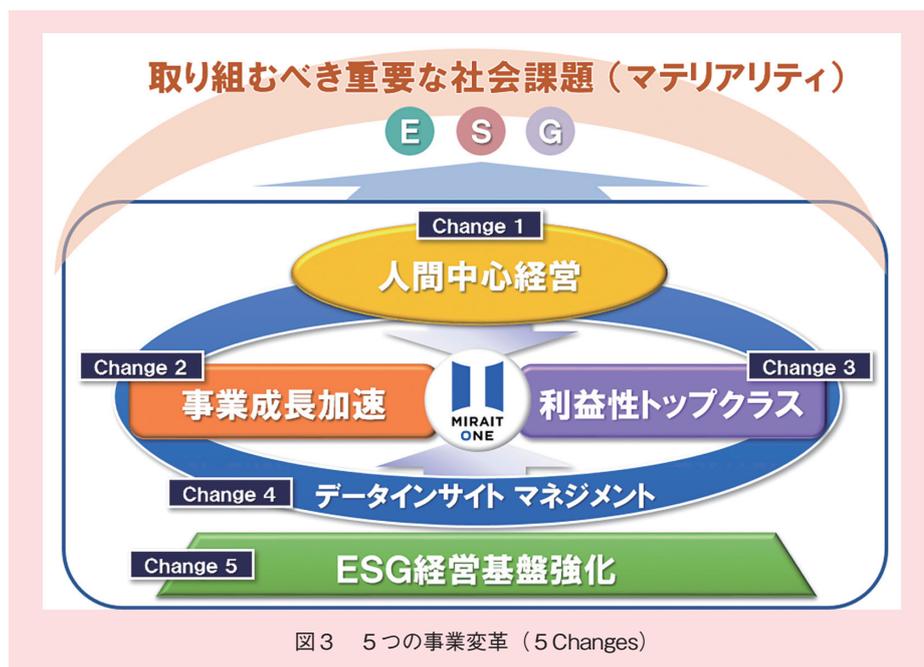


図3 5つの事業変革（5 Changes）



図4 みらいカレッジによる戦略的人財育成

員同士が交流しつながりを深める中で、社員が自ら変わり成長していく環境を実現していきます。技術スキルだけでなく経営スキルやESG（環境・社会・ガバナンス）に対する基本姿勢などソーシャルな分野での講座も充実させる予定です。

この『みらいカレッジ』が、「人が変わり、事業が変わる」人間中心の事業構造改革の原動力となることを目指します。

(2) Change2 「事業成長の加速」

新たな成長戦略においては、事業成長を目指す分野を「みらいドメイン」として明確に再定義し経営リソースを投入(フルバリュー型モデルへの事業構造改革の推進)し成長を図っていきます。「みらいドメイン」として主に取り組む事業は、以下の4分野です。

- ・街づくり・里づくり事業（地方創生事業）や、企業のDXとグリーン化推進事業の加速
- ・脱炭素化に貢献するグリーン発電事業への参入
- ・顧客のDXに貢献するSI事業の強化（戦略子会社化）
- ・海外のデータセンタ関連事業やインフラシェア事業を推進するグローバル事業の強化

既存事業においては、「企業/環境社会ドメイン」では顧客層・顧客数の拡大を図り、「通信基盤ドメイン」

では、顧客の変化と成長への対応を急ぎます。

また、当社が目指すフルバリュー型モデルとは、通信・電気・土木・建築等のさまざまな技術分野を複合的に組み合わせる「横の統合」と、企画提案から保守運用までを一気通貫で行う「縦の統合」を同時に推進するものです。

(3) Change3 「利益性トップクラス」

以下の3つの施策を中心に利益性トップクラスを目指します。

- ・3社統合による徹底した集約・効率化による経営基盤の強化
- ・業務運営の抜本見直しとデータインサイトの活用による効率化
- ・グループ連携の推進による既存オペレーションとコストの見直し

利益性トップクラスを目指すにあたり、これまでの取り組みについてご紹介します。

モバイル事業子会社の再編では、管理費の削減や業務の一部を子会社移管すること等の効率化により、原価率を5ポイント改善できるよう取り組んでいます。

3社統合では、オーバーヘッドや重複する事業部門を集約・統合することで人員効率を20%改善します。ま

た個社ごとに契約していた保険等をまとめることで10%の効率化を図ります。

さらに、本社1極集中型からカンパニーごとの分散オフィス型に見直すことにより、オフィスコストの10%削減を図ります。

次にこれからの取組みについてご紹介します。

まず、ストラクチャルアプローチ（＝抜本的な見直し）についてです。通信キャリアごとに区々な業務を整理し標準化・シンプル化すること、協力会社も含めたバリューチェーン改革などをデータインサイトを活用して進めていきます。

また、オペレーショナル・アプローチ（＝地道な見直し）では、事業会社7社でのベンチマーク改善を続けるとともに、新社内システムの活用で生産性向上を図ります。さらに新たに設置する「プロフィットアップ委員会」で効率化・コスト削減について地道に効率化努力を続けていくこととしています。

(4) Change4「データインサイト マネジメント」

以下の3つの施策を中心にデータインサイト マネジメント（図5）を推進します。

- ・ナレッジベースのデータ環境整備、営業アプローチの最適化（攻めのDX）

- ・バリューチェーン改革、スマート施工、BPO/RPA・ロボティクス活用（守りのDX）
- ・エキスパートおよびコア人財の育成、全社リテラシーの向上（DX人財の育成）

データインサイト経営では、他の4つのChanges（＝事業戦略テーマ）を徹底的にDXする、即ち定量的にも定性的にもデータを見える化し、それを活用して事業変革を進めます。

特に、Change 2（事業成長加速）を「攻めのDX」、Change 3（利益性トップクラス）を実現するための業務効率化を「守りのDX」と位置づけ、両輪で推進していきます。

「攻めのDX」としては、マーケティングDX、営業系DXを柱に、「守りのDX」としては、施工系DX、共通系DXを柱にバリューチェーン改革を進めます。

また、データインサイト経営を推し進めるにはDX人財育成が急務なため、高度な専門職としての「DXエキスパート人財」の確保に加えて、各組織のDXを推進するための「DXコア人財」を戦略的計画的に育成します。「DXコア人財」は、2026年度には2,000名規模を目指しています。

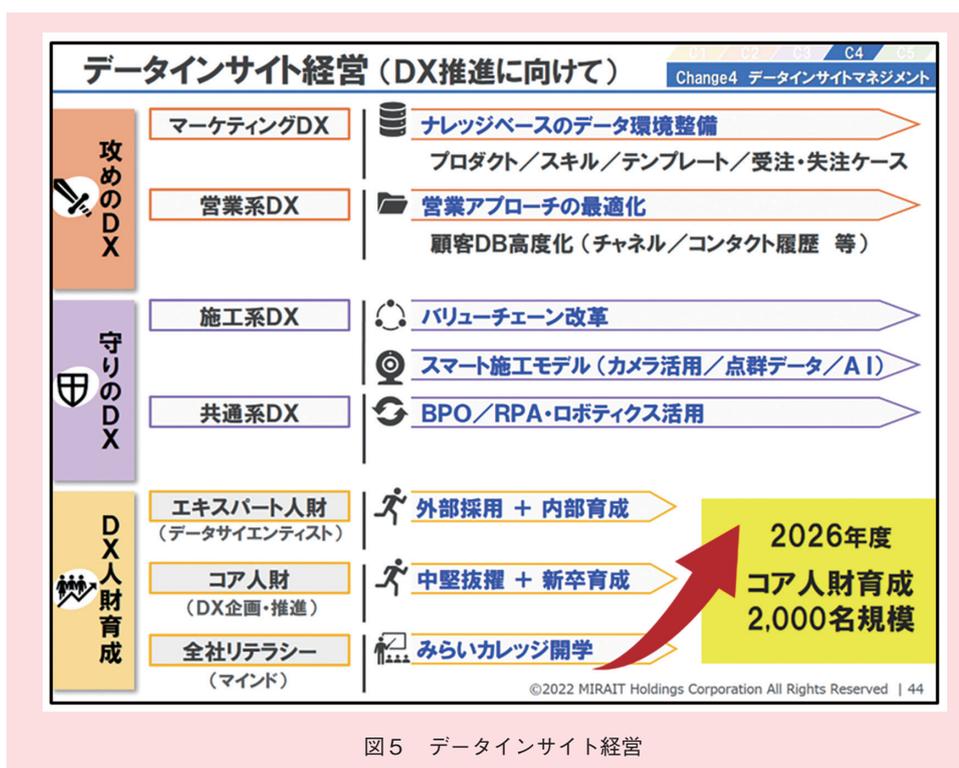


図5 データインサイト経営



図6 2050年カーボンニュートラル実現に向けて

(5) Change5 「ESG経営基盤強化」

ESG経営基盤の強化については、E（環境）の観点からカーボンニュートラル実現に向けた取組み、S（社会）の観点からパートナーとの協働・共創にむけた取組み、G（ガバナンス）の観点から、コーポレートガバナンスの強化やグループマネジメントに関する以下の取組みを推進していきます。

- ・温室効果ガス削減目標（SBT）の達成に向けた取組み
- ・ミライト・ワン パートナー会による社会価値の共創
- ・監査体制充実と三線ディフェンスによる監査機能強化
- ・新たなグループマネジメント体制によるコーポレートガバナンス強化

気候変動問題については、重要な課題と認識し、2050年のカーボンニュートラル実現に向けて2つの側面で貢献していきます（図6）。

まず、グリーン発電事業や企業のGX支援などの事業活動を通し、社会やお客様の環境負荷低減に貢献していきます。また、社有車のEV/HV車両への更改、事業拠

点のグリーン電力への切替などの施策を積極的に推進し、自らが排出する温室効果ガス削減を行うこととしています。

6. おわりに

ミライト・ワン グループを取り巻く事業環境は、5G関連サービス拡大への期待や新型コロナウイルス感染症の拡大が促す「新しい生活様式や働き方」により後押しされた新たなICTソリューションに対するニーズの高まり、さらには脱炭素社会の実現に向けた再生可能エネルギー政策の推進等により、今後も大きく変化していくことが予想されます。ミライト・ワン グループは、従来の事業やサービスをしっかり育てながら、今後の成長分野を「みらいドメイン」と再定義し、街づくり・里づくりや企業DX・GX、グリーンビジネスへの参入やグローバル事業の拡大等に注力していくことで一層の事業成長の加速を図りつつ、お客様や社会の課題解決、地域の活性化の支援に貢献していきます。